

さっぱち体験レポート8月25日

2016/08/25 札幌市立大学 瓜生

本日は快晴の中、8月最後の採蜜が行われました。



巣箱から引き抜いた板には蜜蜂がびっしり！

実際に蜜蜂を目の前にして初めはビクビクしていたのですが、嫌な羽音や体にとまられることなく最後にはかわいらしく思えるほどでした。



巣板についた蜂を振り落としたら、蜜蓋を削ぎ落としていきます。

スタッフの多久島さんがハチミツのたくさんついた蜜蓋を食べさせてくれました！

口の中がぴりっとするくらいしっかりと甘さが広がって感激！



次に遠心分離機で蜂蜜を巣から飛ばして集めていく作業に入ります。

回し終わった後、巣のほうに蜜が残ってしまった板がありましたが、多久島さんが

「すっからかんになるまで採っちゃかわいそうだからこのままでいい」と言っていたのが

印象に残りました。スタッフの皆さんが思いやりを持って接しているからこそ、蜜蜂もおいしいハチミツを作って

くれるんですね！



最後に集めたハチミツを布でこしたら作業は終わり！

この日採れたハチミツの糖度は79度で、まずまずの出来だそうです。

今回の体験では、蜜蜂は小さいけれど普通に生活していたら出会うことのなかった人と人、都市と自然を

つなぐ大きな役割を果たしていることがわかりました。

おみやげにもらった採れたてのハチミツも頑張りの結晶だと思つとさらにキラキラして見えました。